

きらり

[加古川市民病院機構 理念]

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます

医師の異動 <退職者>

| 所属 | 役職 | 氏名 |
|-------|------|--------|
| 消化器内科 | 医長 | 古松 恵介 |
| 消化器内科 | | 長谷川 章 |
| 循環器内科 | 科部長 | 笠原 洋一郎 |
| 循環器内科 | 医長 | 辻 隆之 |
| 循環器内科 | | 松岡 庸一郎 |
| 腎臓内科 | 主任医長 | 中井 健太郎 |
| 腎臓内科 | | 齊藤 慶 |
| 腎臓内科 | 専攻医 | 金井 大輔 |
| 神経内科 | | 岡山 公宣 |
| 精神神経科 | 医長 | 吉住 寿美香 |
| 精神神経科 | 専攻医 | 岩橋 啓介 |
| 小児科 | 医長 | 横田 知之 |
| 小児科 | | 藤井 順子 |
| 小児科 | 専攻医 | 先演 大 |

| 所属 | 役職 | 氏名 |
|-------|-----|--------|
| 外科 | 科部長 | 上野 公彦 |
| 外科 | | 谷 孝文 |
| 整形外科 | 医長 | 大江 啓介 |
| 整形外科 | | 山崎 善功 |
| 眼科 | 医長 | 下山 剛 |
| 眼科 | 専攻医 | 厚見 知甫 |
| 耳鼻咽喉科 | | 藤原 瞬 |
| 皮膚科 | | 伊集院 景子 |
| 産婦人科 | | 障子 章大 |
| 泌尿器科 | 医長 | 安福 富彦 |
| 放射線科 | 医長 | 清水 健嗣 |
| 麻酔科 | 顧問 | 北村 参治 |
| 麻酔科 | | 長谷川 祥子 |

① 兵庫県単位型プログラム 緩和ケア研修会 (PEACEプロジェクト) を開催しました

2月25日(土)と26日(日)の2日間にわたって、がん診療に携わる医師等が緩和ケアに関する基本的な知識及び技能を修得するために実施し、緩和ケアに対する理解を深め、治療の初期段階から緩和ケアが提供されるように、厚生労働省健康局所管プログラムのもと実施される研修会を行いました。合計30名の参加があり、盛況のうちに終了しました。



① JMECC (日本内科学会認定 内科救急・ICLS講習会) を開催しました

3月4日(土)に当院にて「JMECC (日本内科学会認定 内科救急・ICLS講習会)」を開催しました。

ディレクターは総合内科 金澤主任科部長、インストラクターは循環器内科 清水主任科部長、アシスタントインストラクター4名の合計6名が、研修医を含む受講生6名に「救急蘇生」を指導しました。



CONTENTS

- 巻頭言 救急科と救急外来の開院からの診療状況・・・2
- 緊急対応が必要な患者さんの当日受診の流れ・・・3
- 特集 救急科・救急外来について・・・4-5
- 診療科紹介・・・6
- 登録医紹介・・・7
- 連携室ニュース・・・8

救急科と救急外来の開院からの診療状況



加古川中央市民病院 院長補佐 兼 救急科 主任科部長 **きり た まなぶ**
切田 学

加古川中央市民病院の救急外来(1階)は、初療処置室(台)3室(台)、診察室4室、観察ベッド9床と感染症対応診察室2室、シャワー洗浄室を設置し、CT室、単純X線撮影室、アンギオ室、MRI室が隣接した構造になっています。2016年7月4日、診療開始初日、救急車受入れ16例、ウォークイン23例、平日にもかかわらず休日救急当番日なみの救急診療例数でした。救急科は12例の初療に当たりました。開院から2週間の平日は救急当番日なみの救急車搬送例数が続き、救急外来は野戦病院状態で、救急科医師、各科専門医、救急外来看護師は呆然状態で救急診療に当たりました。迷走しながらも7月下旬までに診療体制、診療フローが整備され、8月からはスムーズな救急診療ができるようになりました。精神的にも、体力的にもきつかった7月の日々を昨日のことに思い出します。

さて、2016年7月～2017年1月の7ヶ月間の救急車受入れは病院全体で3861例(年間6500例換算)、うち救急科初療は1172例(救急車搬入の約30%)でした。ウォークインも含めた救急科初療は1368例で、救急科初療例数は2015年度の2倍に増えました。

初療例の内訳は、内因性疾患804例(消化器153例、呼吸器98例、循環器系92例、腎・代謝系65例、精神疾患64例、感染・感冒42例、耳鼻科疾患42例、整形疾患26例、アナフィラキシー10例など)、外因性疾患564例(交通事故・転倒などの外傷339例、マムシ・蜂・犬などの動物咬傷29例、熱中症・環境39例、急性薬物中毒20例など)で、うち院外心肺機能停止は31例でした。救急科初療後、緊急の内視鏡検査/処置が24例に、血管造影検査/処置が17例(TAE3例)に、中央手術室手術が27例に施行されました。

上記の初療傷病者1368例中851例(62%)が帰宅となり、446例(32.6%)が当院に入院(うち救急科入院118例)しました。帰宅851例中455例(53.4%)は市中医院やかかりつけ医の先生方に経過観察・継続加療を依頼しました。

救急科医師、救急外来看護師は、重症度に関係なく、内因・外因に関係なく、ありとあらゆる救急傷病者をひとりでも多く受入れることをモットーにスピーディな診療に心がけています。重症あるいは緊急患者を診察された時には、救急科まで受入れ依頼の連絡を入れてください。病態によってはDrCarで貴院まで出勤し、検査、治療を行いつつ患者とともに帰院します。必要があれば、疾患に応じた専門医と協議して診療に当ります。今後とも宜しくお願いします。



緊急対応が必要な患者さんの当日受診の流れ

地域医療機関より、受診依頼



☎ **ホットライン(内科、循環器内科、小児科・母体・新生児搬送)**

| | 平日 | 土曜日 | 休日・祝日 |
|--------------------|------------|------------|-------|
| ◎内科一般 | 8:30～20:00 | — | — |
| ◎循環器内科 | 8:30～20:00 | 8:30～12:00 | — |
| ◎小児科・母体搬送 新生児搬送 | 24時間 | 24時間 | 24時間 |

緊急対応 患者窓口

TEL 079-451-8652 <24時間365日>



情報提供書を下記の番号へFAXをお願いします。

FAX 079-451-8653



診察

ホットラインの電話番号は、以前 近隣医療機関様にお配りした番号です。
お手元にホットラインの番号がなければ当院：地域連携室へご連絡ください。
医療機関の皆様 何卒よろしくお願いたします。

地域連携室

Tel:079-451-8652

Fax:079-451-8653

DrCarの運用

2016年10月1日より当院ワークステーションに常駐する加古川市消防局救急救命士3名の協力をえてDrCar (医師、看護師同乗)を運用しています。胸痛、背部痛をキーワードに急性心筋梗塞、胸部大動脈解離、胸部大動脈瘤をターゲット疾患としています。2017年4月からは、さらに小児の溺水やアナフィラキシー、痙攣重積、そして外傷傷病者にも出動できるよう準備を進めています。

2016年10月～2017年1月のDrCar出動

実績は、救急現場要請17例(院外心肺機能停止6例、虚血性心疾患2例、胸部大動脈解離2例、不整脈2例、脳幹出血・低体温・急性薬物中毒・肝硬変・肺炎各1例)、医療機関要請8例(重症心不全3例、急性心筋梗塞2例、アナフィラキシー・人工呼吸器管理重症肺炎・陳旧性心筋梗塞各1例)、当院から転送25例(胸部大動脈解離3例、脳損傷3例、頸椎損傷2例など)です。

胸痛・背部痛、重症病態で一刻を争う患者さんを診察された時は、救急科までDrCar出動を要請して下さい。DrCarが出動中、複

数の重症救急患者対応中以外は、貴院まで出動し、検査、治療を行いつづ患者とともに帰院します。DrCar出動要請! 宜しくお願いします。



ドクターカー



新生児専用ドクターカー

特集

救急科・救急外来について

救急外来における看護師の役割

救急外来では、救急車搬入およびウォークインで来院される患者様を受入れ、成人・小児を問わず、さまざまな診療科の初期対応を担っています。JTAS(緊急度判定支援システム)をもとにトリアージレベルを判断し、フィジカルアセスメントを実施、緊急度・重症度を考慮しながら迅速に診療がすすむようサポートしています。

2016年10月からドクターカー運用が開始

となり、看護師も同乗しています。救急医療現場における病態に応じた迅速な救命技術を実践できるよう、ICLSコース(Immediate Cardiac Life Support)をはじめ、トリアージナース育成研修会、JNETC(外傷初期看護セミナー)、JPTEC(外傷病院前救護プログラム)などの院外研修会に参加するスタッフを増やし、知識・技術の向上に努めています。また、アンギオや内視鏡などの緊急検査および治療助をスピーディーに行えるスタッフを育成しています。

当日受診のご紹介の際には、代表電話が混雑している場合もありますので、地域連携室の患者受け入れホットラインや医師宛の紹介専用回線をご利用いただければスムーズです。シームレスな医療連携がとれるよう努めてまいります。今後とも宜しくお願いいたします。



救急看護認定看護師

ひらいし けいこ
平石 恵子 / Keiko Hiraishi

小児科における救急患者受け入れ

加古川中央市民病院の小児科は東播磨地域の小児救急の砦として365日、小児の内因性疾患に関して時間外のご紹介や月120-130台の救急搬送を受け入れております。二次救急病院として当科の責務は、かかりつけの先生が入院加療が望ましいと判断された患者様、救急搬送で受診された患者様、心臓疾患、神経疾患など慢性疾患や人工呼吸器など在宅医療で当院かかりつけの患者様の救急対応と考えております。ただ夜間は1名の小児科医で救急診療を行っており、上記に当てはまらない患者様からの問い合わせに関しては原則的に急病センターをご案内しております。これも二次救急病院としての責務を果たすうえのことと、

ご理解の程よろしく願い申し上げます。先生方からご紹介頂きました患者様に関しては入院とならなかった場合でも当院の外来で経過を診させていただいております。経過は適宜ご報告しておりますが、万一経過報告が遅れている場合には地域連携室にご一報ください。



こどもセンター 副センター長
兼 小児科 医長
にしやま あつし
西山 敦史 / Atsushi Nishiyama

循環器内科における救急患者受け入れ

循環器内科は総勢15名のスタッフで24時間365日にわたり循環器疾患の救急対応を行っています。心筋梗塞、急性心不全、不整脈、大動脈解離などの患者さんは迅速な対応が必要です。当科では急性冠症候群(ACS)の患者さんに対してdoor to balloonをできる限り短縮するよう医師、看護師、臨床工学士、放射線技師からなる緊急カテチーム24時間配置し冠動脈インターベンを速やかに行っています。心原性ショック患者に対してはIABP(大動脈バルーンポンピング)、PCPS(経皮的補助循環装置)などの補助装置を用い救命率

を上げるようにしています。また心肺停止で搬送された患者さんに対し低体温療法を行い社会復帰率の向上に努めています。どのような疾患に対しても対応できるよう最新機器を導入し各分野の専門医をそろえています。さらにドクターカー、ドクターヘリの運用を開始し一刻を争う患者さんにも十分な対応ができるようになりました。月曜から土曜日の日勤帯(8:30~20:00)は診療所からの問い合わせに対し循環器専用電話で清水、角谷が対応しています。いつでも連絡して下さい。



院長補佐 兼 循環器内科 主任科部長
兼 診療支援部長

しみず ひろき
清水 宏紀 / Hiroki Shimizu

当院と連携いただいている登録医療機関をご紹介します。

糖尿病・代謝内科



糖尿病・代謝内科 主任医長
たてや さん しろう
楯谷 三四郎

当科では1型糖尿病、2型糖尿病を中心とした診療を行っております。急激な高血糖や低血糖に伴う急性代謝失調に加え、合併症外来、フットケア外来、また妊娠糖尿病・糖尿病合併症を重点的にっております。1型糖尿病患者ではインスリン頻回投与法を中心に、カーボカウント、持続インスリン皮下注射療法(CSII)を個々の患者さんに合わせ最適な方法を選択し導入・実践しております。CSIIの導入には入院が必要ですが外来での血糖変動を把握するための1週間のCGM外来も開設しており、1型のみならず2型糖尿病の血糖改善をめざし最新の治療を選択することが可能です。コントロール不良な2型糖尿病患者さんにはとりわけ教育が重要であり1週間の教育入院パスを行っております。合併症外来は循環器内科・腎臓内科・形成外科・皮膚科による包括的な精査・治療が可能で、当科ではコメディカルスタッフも交えたK-DiEET(Kakogawa-Diabetes Dietary Exercise Education and Treatment)チームを結成し、集学的な糖尿病診療チーム医療を実践しております。本年4月から常勤医が1名増え益々の充実をはかって参りますのでよろしくお願いたします。

リウマチ・膠原病内科

当科では各種自己免疫疾患の診療を行っております。もっとも患者数が多いのは関節リウマチで、外来通院患者数の6割近くを占める約600名の患者様の診療を行っております。関節エコーなどを用いて可能な限り早期に診断を行うとともに、患者様それぞれの合併症の状況なども考えて抗リウマチ薬、最新の生物学的製剤を選択し治療を行っております。地域の先生方には、早期診断・治療方針の決定に必要な患者様、生物学的製剤の導入が必要な患者様、ステロイドホルモンの減量・中止が難しい患者様など、特に薬物療法にお困りの患者様がおられましたらご紹介いただけましたらと思います。

関節リウマチ診療とともに各種膠原病の診療にも力を入れております。膠原病は発熱、皮疹、関節痛などの全身症状を初発症状とする場合が多く、またさまざまな臓器病変を呈します。典型的な身体所見が隠れていないか診察させていただくとともに、各種検査を用いて診断・治療方針の決定をさせていただきます。各種免疫抑制剤を使い分け、より副作用の少ない治療で寛解を目指したいと考えております。

膠原病かも?と思われる患者様、治療方針に関した再検討が必要な患者様がおられましたら一度ご紹介いただけましたら地域の皆様にお役に立てるような診療を行いたいと思います。



リウマチ科 主任医長
やまね たかし
山根 隆志

いちかわ内科循環器科

診療科：内科／循環器内科／消化器内科／リハビリテーション科
駐車場台数：35台

所在地：加古川市志方町上富木 661-1

TEL.079-452-5222

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 9:00~12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 午後 16:30~18:30 | ○ | ※ | ○ | — | ○ | — | — |

※火曜日の午後は訪問診療

市川先生から

宝殿病院と呼ばれていた子供の頃から親しみ深い病院で、やや遠くになりましたが、中央市民病院になりましても、一層の愛着を感じながら、お世話になっております。生まれ育った志方町に少しでも恩返しをしたい思いで平成8年10月に開院いたしました。「3歳児から在宅医療まで」をスローガンに循環器内科を中心に、安心して通院できる内科診療を目指しています。診断できずに紹介することもあります。できるだけ診断をつけてから紹介したいと思って診療しています。

患者さんの高齢化の傾向は開業してからも明らかに進んでおり、多くの疾患を有しています。到底診療所だけでは満足な診療はできません。これまで通り、紹介、逆紹介はもとより、心の通った病診連携を牽引していただきたいと思います。今後ともご指導のほど、よろしくお願いたします。



院長：市川 靖典 先生



こだま医院

診療科：内科／放射線科／小児科
駐車場台数：30台

所在地：加古川市尾上町今福 467-2

TEL.079-457-0333

| 診療科 | 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------------|----------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 放射線科 小児科 内科 | 午前 9:00~12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 放射線科 内科 | 午後 16:00~19:00 | ○ | ○ | ○ | — | ○ | — | — |
| 小児科 | 午後 16:30~19:00 | ○ | — | ○ | — | ○ | — | — |

※乳幼児健診：BCG：水・金 15:30~16:30(要予約) ※小児科・一般診療：月のみ 16:00~18:00
※予防接種：診療時間内随時

児玉先生から

2004年に明姫幹線と産業道路の交差する今福西で開院致しました。内科放射線科担当の私と小児科担当の副院長の2人体制で0歳児から100歳の高齢者までの診療を行っております。地域の皆様に診察に来てよかったと満足していただける医院を目指しております。

診断に難渋したりコントロールが上手く行かない症例に遭遇した時の頼れる存在であったのが東西の市民病院であり現在の中央市民病院です。特に合併後は専門科目が増えて様々な疾患に対応していただき大変ありがたく感じております。日々進化し増大する医学情報に対して一開業医としてカバーすることは本より出来るものではありません。中央市民病院の諸先生とスタッフの皆様とはこれからも病診連携を密にして地域医療に邁進して行きたいと考えております。



院長：児玉 明久 先生

